

# 設立趣旨書

## 1. 設立趣旨

温暖化が進んでいる。北極や南極の氷が溶けて世界は水の中に沈むとか、逆に氷河期が来るとか、まるで映画の世界の話に聞こえる。しかし、まだ実感が無い。どんなに暑くなっても寒くなっても、今の世の中便利で快適な物に溢れている。今後ともハイテクに歯止めがかかる事は無く、今以上に”便利”な社会になるだろう。反面、季節外れの〇〇とか何か変だなと思う現象が、近年身近に多くなりニュース等でもよく目にする様になった。

石油はあと40年もすれば無くなるという。使い方によってはもっと早いかもしれない。私達40代以上の人はまず心配ない。しかし、子供達は？孫達は？もっと先の未来の子供達はどうか？温暖化の大きな要因は二酸化炭素の排出だと云われている。ここほんの100年余りの間に、特に日本で云えば高度成長期以降大きく進んだという。少なくとも今の50代以上の人達が子供の頃は全くなかった問題である。誰のせい？と聞かれても、どこかの企業が有害な物を大気中に・・・とか、どこかの国が大規模な森林伐採をしたからとか、決して「私のせい？」と思ってる人は少ないだろう。「塵も積もれば山となる」という諺が有るが、昔と大きく変わったのが私達のライフスタイルである。家の中での、会社の中での、学校の中での、そして遊びの中での過ごし方こそが、山となった結果ではないのか。地球上に存在する生物の中で、まさに私達の様なごく普通の人間が招いた事だと確信する。

私達は、生活が豊かになり便利さや効率ばかりを優先するあまり、いつしか自然に対して感動したり感謝したりする気持ちが薄れていっている。普段の営みの中でも同様である。一方で、春には多くの人が花見を楽しみ、夏になれば海に出かけ、秋になれば紅葉に目を見張り、冬になれば温泉が恋しくなる。化学肥料を使った物より自然の物を、人工的に作った物より天然の物を欲している。人の体や脳は、自然を覚えていて欲している。自然(=ナチュラル=あたり前の暮らし)に戻る為には、“スイッチポン”だけの生活から少し離れ、体を使い汗を流し知恵を使う、脳を本来のものに呼び戻す。そうする事で、心も豊かになり感動や感謝の気持ちも蘇る。

森は、気温を下げ、水と空気をきれいにする。近い将来、大きな戦争が起こるとしたら、その原因は”水”だと云われている。あるテレビ番組の中で、「今あなたに取って一番必要な物は何？」という質問に、「携帯電話・テレビ」と答えた人が多い中、「水・空気」と答えた若者がいたという。まさに生命を育む根源。

「今一番必要なものは水と空気」と思う人達を少しでも増やしたい。その為に**木を伐って、<木を燃やし・木を使い・木で作る・木で遊ぶ>**仲間を、自然や普段の営みの中で、感動する心や感謝する気持ちを共有出来る仲間を増やしてゆきたい。そして、仲間が増えたら木を植え育てる。ほんの少しだけ今迄のライフスタイルや考え方を変えて貰う為に、私達は背中を押してあげる活動を展開してゆきます。今出来る事からやってゆきます。

私達は、“思い”を同じくする人が集まり、子供達の未来や地球の為、そうした仲間を増やす事、森の循環を復活させる事を目的に、特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹を設立します。

## 2.申請に至る迄の経緯

平成21年11月、森林整備促進の普及広報目的に、一迫林業研究会・東北職業能力開発大学校・宮城県工業高等学校・栗駒高原森林組合・栗原市等協同で実施した地域イベント（パンフレット添付）終了後、主体的に関わった各協働先や取引先の関係者・参加者等、“思い”を同じくする人達が、各々の経験や得意分野・専門分野を生かしながらより積極的に活動する為に、新たな団体設立を決意しました。

平成22年1月に発起人会を開き、設立の趣旨、定款、平成22年度～平成23年度の事業計画及び収支予算、設立当初の役員などについての案を審議しました。

平成22年2月 6日15時より設立総会を開き、発起人より設立の趣旨、定款、平成22年度～平成23年度の事業計画及び収支予算、設立当初の役員などを提案し、審議の上決定致しました。

平成22年2月6日

特定非営利活動法人 フォレストサイクル元樹  
設立代表者

住所 宮城県栗原市一迫真坂字高橋2番地4

氏名 蛇口 昌俊